

# 生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト 活用マニュアル（かがわ版）[増補版]

— 2018年8月 —

## 《マニュアル編》

「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」活用にあたって	1 ページ
「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」使用マニュアル	2 ページ
生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト	3 ページ
チーム支援のためのアセスメント・プランニングシート	4 ページ

## 《資料編》

チェックリスト記載用モデル事例—学校に来たいけど…—	5 ページ
生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト（記載例）	6 ページ
チーム支援のためのアセスメント・プランニングシート（記載例）	7 ページ
ケース会議のもち方・進め方	8 ページ
登校支援のための方策の検討（ケース会議用資料作成モデル）	10 ページ
生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト（コピー用）	11 ページ
チーム支援のためのアセスメント・プランニングシート（コピー用）	12 ページ
スクールソーシャルワーカーのためのアセスメント考	13 ページ
教育相談コーディネーターの役割	15 ページ
エコマップ・ジェノグラム表記例	17 ページ

## 「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」活用にあたって

国の制度として小・中学校にスクールソーシャルワーカー（以下、SSWer）が配置されて11年が経ちます。そのような中、香川県は、国の制度よりも7年早く、2001年から小・中学校へSSWerを配置しています。また、県立高等学校においては、全国に先駆けて2011年から定時制課程にSSWerを配置しています。

そもそも、学校へのSSWer配置は、小・中学校が対象となっているため、香川県のように県立高等学校すべてにSSWerを配置している自治体は全国的にも稀です。

また、教育行政以外にも、四国学院大学の「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程」や「スクール・ソーシャルワーカー活用講座 in SGU」、職能団体である香川スクールソーシャルワーカー協会の「SSWer養成講座」や「香川SSWセミナー」など、官学民によるスクールソーシャルワーク（以下、SSW）の普及と定着に向けた取り組みは、他県に類を見ないほど積極的です。

しかし、先駆的な取り組みを行っている香川県ですが、均一化されたSSW業務の確立とSSWerの質の担保、業務指針や倫理綱領の策定、雇用条件の整備など、SSWの充実に向けた課題もあります。とりわけ、均一化されたSSW業務の確立は、生徒の支援に直接関わるだけに、速やかに解決されるべき課題の一つです。

「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」（以下、チェックリスト）は、四国学院大学が取り組んでいるスクール・ソーシャルワーカー活用事業の一環として、上記にあげられる課題を解決する一助として、加えて「チーム学校」を具現化する一方法として作成されたものです。是非とも、学校現場で活用していただければと願う次第です。

なお、チェックリストを用いる利点と留意事項については下記のとおりです。

### 《利点》

- ① 問題や課題の見落としや見逃しの低減
- ② 情報の共有によるケースの抱え込みの抑止
- ③ 計画性に基づくチーム支援と個の負担軽減
- ④ 恣意によらない客観的なアセスメント
- ⑤ 多角的な視点によるアセスメント
- ⑥ 教育相談の役割の明確化と強化

### 《留意事項》

- ① チェックリストは、生徒の状況や環境を客観的に評価するために用いるものであって、生徒の性格傾向や素行等を評価するために用いるものではありません。
- ② チェックリストの環境要因のチェックは、事実を確認できる事象にのみチェックし、憶測、推測による事象に関してはチェックしません。
- ③ チェックリストは、生徒の状況や環境を知ることができても、生徒を全人格的に理解できるものではありません。

※ 本チェックリストは、SSWに深く関与する関係者が職域を超えて作成したものです。

2018年8月

# 「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」使用マニュアル

## チェックリストの考え方

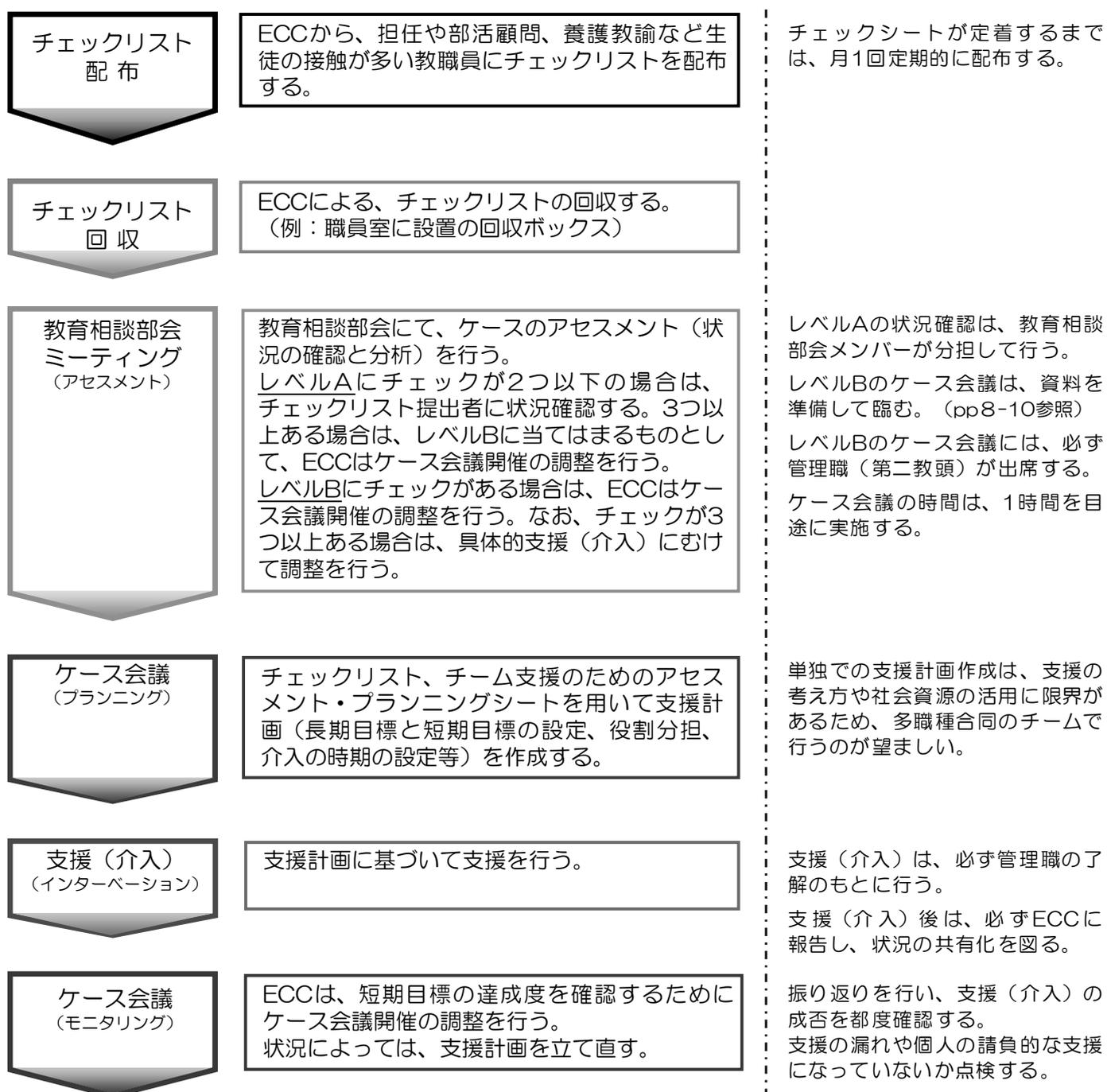
チェックリストは、生徒の生活状況や環境を評価することで、より良い支援を模索するために用います。そのため、チェックリストを使用するにあたっては、教職員として「出来ること」や支援の「助けになる」ことを見つけだすよう心がけます。

チェックリストを用いることで、ネガティブな面だけが強調されないことがないように気を付けなければなりません。

なお、チェックリストの直接の管理や取り扱いは、教育相談コーディネーター（ECC）が中心に行います。

※ 教育相談コーディネーター（Educational Counseling Coordinator ; ECC）、15ページ参照

## 《チェックリストの使い方と支援の進め方》



生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト

介入レベル	環 境 要 因		
	生徒自身に関する問題や課題	家族や家庭に関する問題や課題	地域や生活環境に関する問題や課題
レベルA インシデント (Incident)  ※ 取り組むべき問題や課題に結びつく背景として考える項目	<input type="checkbox"/> 生活リズムの乱れ <input type="checkbox"/> 顕著な体重の増減 <input type="checkbox"/> 遅刻や欠席が増えた(授業、行事) <input type="checkbox"/> 修学意欲の低下 <input type="checkbox"/> 成績の低下 <input type="checkbox"/> 提出物の遅れ <input type="checkbox"/> 必要経費の滞納や未納 <input type="checkbox"/> 部活動を休む <input type="checkbox"/> 周りと関係を持ちたがらない <input type="checkbox"/> 保健室利用が増えた <input type="checkbox"/> 慢性疾患、発達障害等	<input type="checkbox"/> 子どもや学校に対して無関心 <input type="checkbox"/> 過干渉による家族と本人の喧嘩口論 <input type="checkbox"/> 乱雑な家庭内状況 <input type="checkbox"/> 多子(例えば兄弟姉妹が5人以上) <input type="checkbox"/> たまり場になっている <input type="checkbox"/> 親が家庭にいない(長期出張、長時間労働) <input type="checkbox"/> 不定就労、低所得(パート、アルバイト) <input type="checkbox"/> 慢性疾患、障害(心身の障害) <input type="checkbox"/> ひとり親、祖父母による養育 <input type="checkbox"/> 両親の離婚あるいは再婚	<input type="checkbox"/> 気になる生徒の長期休暇期間の生活とその前後の生活 <input type="checkbox"/> アルバイトの開始 <input type="checkbox"/> 歓楽街が身近にある
レベルB 積極的経過観察 (Aggressive follow-up)  ※ レベルCに発展するエピソードとして考える項目	<input type="checkbox"/> 欠席が目立つようになる <input type="checkbox"/> 友達関係の変化 <input type="checkbox"/> 風紀の乱れ <input type="checkbox"/> 生徒指導を受けた <input type="checkbox"/> 場にそぐわない言動が目立つ <input type="checkbox"/> 元気がない、食欲がない <input type="checkbox"/> 自傷行為	<input type="checkbox"/> 生徒の保清に無関心(汚れた衣服の着用、不潔な頭髮、体の異臭等) <input type="checkbox"/> 生徒に必要な受診をさせない <input type="checkbox"/> 就学中の呼び出し(帰宅を促す等) <input type="checkbox"/> 生徒が兄弟姉妹の世話をしている <input type="checkbox"/> 就労(アルバイト)の強要 <input type="checkbox"/> 親の家出(遊興、失踪等)	<input type="checkbox"/> 行動範囲の変化 <input type="checkbox"/> 引越し <input type="checkbox"/> 頻回の外泊 <input type="checkbox"/> 歓楽街への出入り
レベルC 介入 (intervention)  ※ 即刻介入を要すエピソードとして考える項目	<input type="checkbox"/> いじめ <input type="checkbox"/> 学校に来なくなる <input type="checkbox"/> 家出 <input type="checkbox"/> 帰宅しながらない <input type="checkbox"/> 精神疾患の発病 <input type="checkbox"/> 妊娠 <input type="checkbox"/> ストーカー行為 <input type="checkbox"/> 自殺をほのめかす言動	<input type="checkbox"/> 虐待行為 <input type="checkbox"/> 身内の自死	作成者氏名 _____ 生徒との関係 _____ 生徒氏名 _____ 生徒所属 _____ 年 組 _____ 番 作成日月 _____ 年 _____ 月 _____ 日

(注) 生徒指導や警察が介入すべき問題や課題を抱える生徒は、チェックリストに関係なく支援対象とする。

2018.7.30/Ver6.1

《支援・介入における判断基準》

- ・ チェックリストにある「介入レベル」と「環境要因」によって支援・介入を判断する。

介入レベル	内 容
レベルA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談部会を中心に、支援体制の準備に向けて情報交換を行うレベル。</li> <li>・ 関係者による支援会議を開催し、当面の支援方針等を確認する。</li> <li>・ レベルAにあげる事象が3つ以上当てはまる場合は、レベルBとして取り扱う。</li> </ul>
レベルB	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題や課題の解決に向けて即時介入まではいかないが、生徒・保護者に対して、学校として支援の必要性や警鐘を与えるレベル。</li> <li>・ 保護者との情報交換等を行い、チームによる支援体制を組む準備を行う。</li> <li>・ レベルBにあげる事象が、環境レベルにこだわらず3つ以上当てはまる場合は、レベルCとして取り扱う。</li> </ul>
レベルC	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 即介入レベル。</li> <li>・ ケース会議を実施し、支援計画の作成(目標の設定や役割分担等)を行う。</li> </ul>

《チェックリストの特徴と考え方》

- ・ 生徒の抱える問題や課題の解決については、健康(心身の健康と生命の安全)、教育(豊かに育つ)、社会面(安全の確保)の観点から考えている。
- ・ 生徒を取り囲む環境(環境レベル)を「生徒自身に関する問題や課題」、「家族や家庭に関する問題や課題」「地域や社会環境に関する問題や課題」の3つに分類している。
- ・ 環境レベルで取り上げている項目は、客観的に判断できる事象としている。
- ・ 問題や課題は細分化せず、日常業務の中で確認できる特徴的なことを取り上げている。
- ・ 支援・介入(介入レベル)については、「レベルA」、「レベルB」、「レベルC」と段階的に考えている。

《チェックリストの使い方—支援の進め方》

別紙「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」使用マニュアルを参照のこと。

# チーム支援のためのアセスメント・プランニングシート

作成者： \_\_\_\_\_

作成月日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

生徒： \_\_\_\_\_ 性別： \_\_\_\_\_ 所属： \_\_\_\_\_ 年 組 番 部活動： \_\_\_\_\_

## 1. 支援の長期目標

## 2. 背景と経過（アセスメント①）

事象の発生	考えられる要因		
	時（時期）と場所	人間関係	きっかけ
<input type="checkbox"/> いつ・どこで・なにが  <input type="checkbox"/> 事象発生時の状況  <input type="checkbox"/> これまでの経過	<input type="checkbox"/> 時（時期）  <input type="checkbox"/> 家庭  <input type="checkbox"/> 家庭  <input type="checkbox"/> 地域  <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 家族  <input type="checkbox"/> 友人  <input type="checkbox"/> 教員  <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 虐待  <input type="checkbox"/> いじめ  <input type="checkbox"/> 非行  <input type="checkbox"/> 疾病（身体・精神）  <input type="checkbox"/> 成績・進路  <input type="checkbox"/> その他

## 3. 現在の状況（アセスメント②）

状況                     
  欠課・欠席状況                     
  本人の意向                     
  保護者の意向                     
  キーパーソン

## 4. 介入の目的と支援の短期目標 ※ 短期目標の設定は、本人の意向、家族（あるいはキーパーソン）の意向を最大限反映させる。

## 5. 介入計画（プランニング）

□ だれが	□ いつ	□ だれに	□ どこで	□ なにを	□ どのように
担任	.....	.....	.....	.....	.....
副担任	.....	.....	.....	.....	.....
部活顧問	.....	.....	.....	.....	.....
SSWer	.....	.....	.....	.....	.....
SC	.....	.....	.....	.....	.....
教育相談（ECC）	.....	.....	.....	.....	.....
（.....）	.....	.....	.....	.....	.....

## 6. 振り返り（モニタリング）

# 資料編

さらに教育相談を充実させるための資料です。

## チェックリスト記載用モデル事例—学校に来たいけど…—

高校2年生のF君は、夏休みが明けてから学校を休むことが多くなりました。担任は電話や家庭訪問をしますが、直接F君や家族につながることはありません。F君が、久々に登校したある日のこと、担任は時間を作って本人と面談をしました。そこで分かったことは、2年生になってから、父親の失業が原因で両親がパートで共働をするようになり、小学校に通う二人の妹の面倒をみなくてはならなくなった。学校には来たいけど、学校に来るような気持ちにはなれない。また、成績も下がり、気が滅入ってどうしてよいのかわからないということでした。面談の終わり際、担任が、登校できてないことや痩せていること、また家庭のことなど心配していることを伝えると、F君は「話を聞いてもらい気持ちが楽になりました。また話がしたいです」と言って帰宅しました。その後もF君の生活は変わりません。

担任が、2年生になってからの出席日数や成績を改めて確認すると、1学期末ころから急激に成績が下がっていることが分かりました。学校に来たくても来ることができないF君をこのままにしておく、心身ともに疲弊し、修学意欲も全くなりそうで心配です。

※ 本事例は、6ページ「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」（記載例）、7ページ「チーム支援のためのアセスメント・プランニングシート」（記載例）のために作成した事例です。  
なお、事例の詳細は10ページに記載しています。

生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト

《チェックリスト》

介入レベル	環 境 要 因		
	生徒自身に関する問題や課題	家族や家庭に関する問題や課題	地域や生活環境に関する問題や課題
レベルA インシデント (Incident)  ※ 取り組むべき問題や課題に結びつく背景として考える項目	<input type="checkbox"/> 生活リズムの乱れ <input checked="" type="checkbox"/> 顕著な体重の増減 <input type="checkbox"/> 遅刻や欠席が増えた(授業、行事) <input checked="" type="checkbox"/> 修学意欲の低下 <input checked="" type="checkbox"/> 成績の低下 <input type="checkbox"/> 提出物の遅れ <input type="checkbox"/> 必要経費の滞納や未納 <input type="checkbox"/> 部活動を休む <input type="checkbox"/> 周りとの関係を持ちたがらない <input type="checkbox"/> 保健室利用が増えた <input type="checkbox"/> 慢性疾患、発達障害等	<input type="checkbox"/> 子どもや学校に対して無関心 <input type="checkbox"/> 過干渉による家族と本人の喧嘩口論 <input type="checkbox"/> 乱雑な家庭内状況 <input type="checkbox"/> 多子(例えば兄弟姉妹が5人以上) <input type="checkbox"/> たまり場になっている <input checked="" type="checkbox"/> 親が家庭にいない(長期出張、長時間労働) <input checked="" type="checkbox"/> 不定就労、低所得(パート、アルバイト) <input type="checkbox"/> 慢性疾患、障害(心身の障害) <input type="checkbox"/> ひとり親、祖父母による養育 <input type="checkbox"/> 両親の離婚あるいは再婚	<input type="checkbox"/> 気になる生徒の長期休暇期間の生活とその前後の生活 <input type="checkbox"/> アルバイトの開始 <input type="checkbox"/> 歓楽街が身近にある
レベルB 積極的経過観察 (Aggressive follow-up)  ※ レベルCに発展するエピソードとして考える項目	<input checked="" type="checkbox"/> 欠席が目立つようになる <input type="checkbox"/> 友達関係の変化 <input type="checkbox"/> 風紀の乱れ <input type="checkbox"/> 生徒指導を受けた <input type="checkbox"/> 場にそぐわない言動が目立つ <input checked="" type="checkbox"/> 元気がない、食欲がない <input type="checkbox"/> 自傷行為	<input type="checkbox"/> 生徒の保清に無関心(汚れた衣服の着用、不潔な頭髮、体の異臭等) <input type="checkbox"/> 生徒に必要な受診をさせない <input type="checkbox"/> 就学中の呼び出し(帰宅を促す等) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒が兄弟姉妹の世話をしている <input type="checkbox"/> 就労(アルバイト)の強要 <input type="checkbox"/> 親の家出(遊興、失踪等)	<input type="checkbox"/> 行動範囲の変化 <input type="checkbox"/> 引越し <input type="checkbox"/> 頻回の外泊 <input type="checkbox"/> 歓楽街への出入り
レベルC 介入 (intervention)  ※ 即刻介入を要すエピソードとして考える項目	<input type="checkbox"/> いじめ <input type="checkbox"/> 学校に来なくなる <input type="checkbox"/> 家出 <input type="checkbox"/> 帰宅しながらない <input type="checkbox"/> 精神疾患の発病 <input type="checkbox"/> 妊娠 <input type="checkbox"/> ストーカー行為 <input type="checkbox"/> 自殺をほのめかす言動	<input type="checkbox"/> 虐待行為 <input type="checkbox"/> 身内の自死	作成者氏名 <u> 〇〇 △△ </u> 生徒との関係 <u> 担任 </u> 生徒氏名 <u> F </u> 生徒所属 <u> 2 年 〇 組 〇〇 番 </u> 作成日月 <u> 2018 年 10 月 〇〇 日 </u>

(注) 生徒指導や警察が介入すべき問題や課題を抱える生徒は、チェックリストに関係なく支援対象とする。

2018.7.30/Ver6.1

《支援・介入における判断基準》

- ・ チェックリストにある「介入レベル」と「環境要因」によって支援・介入を判断する。

介入レベル	内 容
レベルA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談部会を中心に、支援体制の準備に向けて情報交換を行うレベル。</li> <li>・ 関係者による支援会議を開催し、当面の支援方針等を確認する。</li> <li>・ レベルAにあげる事象が3つ以上当てはまる場合は、レベルBとして取り扱う。</li> </ul>
レベルB	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題や課題の解決に向けて即時介入まではいかないが、生徒・保護者に対して、学校として支援の必要性や警鐘を与えるレベル。</li> <li>・ 保護者との情報交換等行い、チームによる支援体制を組む準備を行う。</li> <li>・ レベルBにあげる事象が、環境レベルにこだわらず3つ以上当てはまる場合は、レベルCとして取り扱う。</li> </ul>
レベルC	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 即介入レベル。</li> <li>・ ケース会議を実施し、支援計画の作成(目標の設定や役割分担等)を行う。</li> </ul>

《チェックリストの特徴と考え方》

- ・ 生徒の抱える問題や課題の解決については、健康(心身の健康と生命の安全)、教育(豊かに育つ)、社会面(安全の確保)の観点から考えている。
- ・ 生徒を取り囲む環境(環境レベル)を「生徒自身に関する問題や課題」、「家族や家庭に関する問題や課題」、「地域や社会環境に関する問題や課題」の3つに分類している。
- ・ 環境レベルで取り上げている項目は、客観的に判断できる事象としている。
- ・ 問題や課題は細分化せず、日常業務の中で確認できる特徴的なことを取り上げている。
- ・ 支援・介入(介入レベル)については、「レベルA」、「レベルB」、「レベルC」と段階的に考えている。

《チェックリストの使い方—支援の進め方》

別紙「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」使用マニュアルを参照のこと。

チーム支援のためのアセスメント・プランニングシート

作成者：〇〇 △△（担任）

作成月日：2018年 10月 〇〇日

生徒： F 性別： 男 所属： 2年 〇組 〇〇番 部活動： なし

1. 支援の長期目標

学校に来ることができるようになる。

2. 背景と経過（アセスメント①）

事象の発生	考えられる要因		
	時（時期）と場所	人間関係	きっかけ
<input type="checkbox"/> いつ・どこで・なにが 2学期に入って欠席がみられるようになる。  <input type="checkbox"/> 事象発生時の状況 本人が親に代わって妹の面倒を見ている。そのため、修学意欲も低下し、成績も落ち込んでいる。背景には、父親が失業したことによる両親の共働きがある。  <input type="checkbox"/> これまでの経過 父親の失業による生活の変化に伴い、欠席が目立つようになる。担任は再々電話連絡と家庭訪問をするが、本人や家族とは会えないまま現在に至っている。夏休み明けに本人と話す機会を作り、状況を確認する。本人は、学校に来たいが、妹の世話が大変で心身ともに疲れていることが分かる。担任との関係は良好。	<input type="checkbox"/> 時（時期） Fが2年になった4月頃、父親が失業し、両親が働きたす。  <input type="checkbox"/> 学校 欠席により修学意欲が低下している。その影響もあるのか、成績の低下もみられる。  <input type="checkbox"/> 家庭 父親の失業、両親の共働きによる生活環境の変化。  <input type="checkbox"/> 地域 現在の生活を支える地域とのつながりはない。  <input type="checkbox"/> その他 福祉事務所や民生委員・児童委員、子ども相談センターなどと関係があるかどうかは不明。	<input type="checkbox"/> 家族 両親は仕事が忙しく、養育がおろそかになっている。妹の世話が、本人の生活を圧迫している。  <input type="checkbox"/> 友人  <input type="checkbox"/> 教員 担任との関係は良好である。  <input type="checkbox"/> その他 親戚との交流の有無は不明。	<input type="checkbox"/> 虐待 虐待（ネグレクト）の可能性  <input type="checkbox"/> いじめ  <input type="checkbox"/> 非行  <input type="checkbox"/> 疾病（身体・精神）  <input type="checkbox"/> 成績・進路  <input type="checkbox"/> その他 父親の失業、両親の共働きによる生活の変化。

3. 現在の状況（アセスメント②）

<input type="checkbox"/> 状況 妹の世話と成績が下がったことによる修学意欲の低下で欠席が目立つ。	<input type="checkbox"/> 欠課・欠席状況 2学期になって欠席が多く、10月半ばまでの欠席は15日となっている。	<input type="checkbox"/> 本人の意向 学校に行きたい。現状をどのようにしてよいのかわからない。	<input type="checkbox"/> 保護者の意向 接触がないので不明。	<input type="checkbox"/> キーパーソン 不明
---	--	--	---	---------------------------------------

4. 介入の目的と短期目標 ※ 短期目標の設定は、本人の意向、家族（あるいはキーパーソン）の意向を最大限反映させる。

- ① 家族と接触を取り、本人が学校に来たがっていることと修学状況について伝え、今後について相談する。
- ② 福祉サービス等の情報提供を行い、家族の希望があれば関係機関につなげる。

5. 介入計画（プランニング）

□ だれが	□ いつ	□ だれに	□ どこで	□ なにを	□ どのように
担任	1週間以内	本人・保護者	学校又は家庭	修学状況を伝える	面談または電話
副担任					
部活顧問					
SSWer	1週間以内	本人・保護者	担任と同行	福祉サービスの情報提供	面談または電話
SC	担任の訪問後	本人	学校	気持ちや考えの整理	カウンセリング
教育相談（ECC）	担任の訪問後	関係者（含校外関係者）	学校	意見交換と役割分担	ケース会議の開催
( )					

6. 振り返り（モニタリング）

## ケース会議の持ち方・進め方

### 1. ケース会議と資料の必要性

校内関係者だけでケース会議を行う場合や支援がさほど困難でないケースであれば、「生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト」と「チーム支援のためのアセスメント・プランニングシート」の二つを用いてケース会議を行うこともできます。

しかし、外部を招いてケース会議を行う場合は、他機関の関係者と一緒になって支援内容や役割分担などの意見交換を行うため、情報が共有できる資料が必要となります。

### 2. ケース会議の進め方

ケース会議は、一般的に、決められた時間と場所、参加者によって行われます。また、会議を円滑に進めるために進行係を設けます。

ケース検討は、進行係の指示に従って、①基礎情報の確認作業、②ケースの検討作業、③まとめの作業の順に進めていきます。

①基礎情報の確認作業は、ケース検討の導入段階として参加者全員に情報の共有化を図るために行います。情報共有がなされないままケースの検討に入ることは避けます。

②ケースの検討作業は、話題提供者が提示する検討事項について話し合います。愚痴や不満のはけ口、慰め合いにならないように気を付けます。

③まとめの作業は、話題提供者が提示した検討事項を整理すると同時に、今後の方向性や役割分担などを決めます。

### 3. ケースのまとめ方

ケースをまとめた経験の少ない人の困りごとの一つに、経過をどのようにまとめるかといったことがあります。経過をまとめるにあたっては、下記を参考にしてください。

- 1) 時系列で客観的にまとめる
- 2) エピソードに焦点をあて、時期を区切ってまとめる
- 3) 支援の過程で生じた葛藤に焦点を当ててまとめる

### 4. ケースに記載すべき内容

ケース検討を限られた時間で効果的に進めるためには、参加者が円滑にケース検討に入れるよう、ケースの体裁を整えておくことが大切です。ケースの体裁を整えるにあたっては、下記の項目を参考にしてください。

- 1) 発題内容に見合ったタイトル  
検討事項を的確に表した題目であること
- 2) ケース提供の目的と発題の動機  
話題提供者の問題意識や悩みを明確にする
- 3) ケースの概要  
問題の本質が伝わるように、ケースの全体像を簡潔にまとめること
- 4) ケースの基礎情報  
① 氏名（氏名は無作為のアルファベットで表記する）・年齢・性別

- ② 住所（生活圏が理解できるように／地名がわかるイニシャル化はさける）
- ③ 家族状況（できればジェノグラム／エコマップを用いること）
- ④ 修学状況（出欠状況／修学態度／人間関係／部活動など）
- ⑤ 生活状況（家族関係／修学状況／社会資源の利用状況など）
- 5) ケースの経過  
記載量は、時間内に収まるよう工夫する
- 6) 考察  
何をどのように考えた（考えている）かについて書く
- 7) まとめ  
感想ではなく、取り組んだ結果の成果や残された課題について書く
- 8) ケース会議での検討事項  
ケース会議で何を検討したいのか具体的に書く

## 5. 倫理的配慮—守秘義務とインフォームド・コンセント

倫理的配慮は、プライバシー保護の観点から必ず行います。

具体的には、生徒が特定できないように氏名は無作為に選んだアルファベットを用い、住所などは直接関係のないアルファベットを用いてイニシャル化します<sup>1</sup>。

また、生徒の生活に具体的に触れるような場合やケースとは直接関係のない者がケース資料に触れるような場合は、職業倫理の観点から、できる限り生徒（保護者）からケース提出の承諾を得るようにします（インフォームド・コンセント）<sup>2</sup>。

ケース検討後は、保存用のケース会議資料1部残し、それ以外は回収します。

## 6. その他（ケース検討における心がけ）

- 1) 検討事項を一般的な世間話として語って終わらせることがないようにします。
- 2) ケース検討では、支援の振り返りを行います。そのため、話題提供者は、うまく支援できていなかった自分に気づいたとき、必要以上に気にして自分を責めることがあります。そのような話題提供者を前に参加者は、慰めや励ましの言葉をかけたりします。しかし、慰めや励ましの言葉は、逆に振り返り作業の妨げになることもあるため、時と場合を考えて使わなくてはなりません。
- 3) 「大変ですね」といった労う形での終わり方は、例えそうであっても極力避けます。「大変ですね」は、漠然とした終わり方をしたときに便利よく使える言葉です。このような終わり方にしないためにも、話題提供者は発題の動機や検討したいことを明確しておく必要があります。
- 4) ケース会議で取り上げる内容によっては、管理職がケース会議に出席する必要があります。しかし、管理職がケース会議に出席すると、時として管理職の意見がケース会議に影響を与えすぎることがあります。あくまでも対等な立場で意見が言える状況づくりが大切です。

<sup>1</sup> 出席が校内関係者に限られるケース会議においては、個人名を明記することもあり得ます。

<sup>2</sup> 広島県精神保健福祉士協会『事例検討会および報告集等への事例報告掲載における利用者等のプライバシー保護のためのガイドライン』（[http://www.hiroshima-psw.com/data/guide\\_h.pdf](http://www.hiroshima-psw.com/data/guide_h.pdf)）を参照のこと。

## 登校支援のための方策の検討

話題提供：〇〇 △△（担任）

### 1. 発題の動機

生徒F（高校2年生）の欠席の背景に、家庭の経済問題がある。担任としてFの就学指導を行うとなると、家庭問題にまで触れなくてはならなくなり、対応に苦慮している。

また、Fが登校するようになるには、学校によるFの支援と併せて学校外の関係機関による家族支援（両親、小学生の妹）が必要と考えられるため、できれば関係機関と連携を持ちたい。

### 2. ケースの概要

Fが2年生になったころ父親が失業し、家のローン返済のために両親そろってパートで仕事をするようになる。両親は、朝早くから夜遅くまで仕事をしており、Fが二人の妹の世話をするようになる。Fの話からすると、Fは、家庭内の多くのことを行っており、それが原因して登校意欲が低下し、成績も悪くなっている。Fは、学校は行きたいが、何をどのようにしてよいのかわからず心身ともに疲れている。

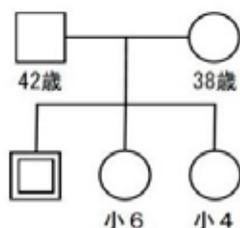
担任とFとの関係は良好で、Fや家族に会おうと思って連絡をするが、つがらないことが殆どで、担任がFと話ができるのは、Fが登校したときのみである。

### 3. ケースの基礎情報

氏名：F 男 高校2年生

住所：B市C町

家族状況：両親、妹二人の5人家族



修学状況：1年生の時は欠席もなく、大学進学を目標に勉学に励んでいた。部活動（サッカー部）も積極的であった。2年生になって遅刻が時々あったが、指導するほどでもなかった。2年生の2学期に入って欠席が目立つようになる。1週間に2回から3回は欠席している。

生活状況：経済的に厳しい状況で、夫婦共働きをしている。二人の妹の世話をFがしており、親による養育がなされていない。親戚や近所、行政の支援状況は不明である。

### 4. ケースの経過

#### ① 2年生2学期まで

学習面、部活動共に熱心で、特段心配するようなことはなかった。担任との関係も良好で、何かあるとFから相談に来ていた。

#### ② 2年生2学期以降

始業式は出席する。その後欠席が目立つようになり、週2、3回は欠席するようになる。担任がFに理由を尋ねても「頑張ります」の一言で詳しいことを話そうとしない。

担任は心配して、休んだその日や翌日に電話や家庭訪問をするが、全くFや家族とつながらない。

10月初旬、Fと面談を行う。そこで初めて家庭の状況や学校に対する思いがわかる。

面談後のFの登校状況に変化はない。

### 5. 考察

Fは、学校に来たがっているが、家庭の事情で登校がかなわない状況にある。Fが登校するには、Fの生活基盤である家庭への支援が不可欠である。

### 6. ケース検討での検討事項

Fが登校できるようになるための支援について検討する。

本ページをコピーして使ってください。

取扱注意

## 生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト

介入レベル	環 境 要 因		
	生徒自身に関する問題や課題	家族や家庭に関する問題や課題	地域や生活環境に関する問題や課題
レベルA インシデント (Incident)  ※ 取り組むべき問題や課題に結びつく背景として考える項目	<input type="checkbox"/> 生活リズムの乱れ <input type="checkbox"/> 顕著な体重の増減 <input type="checkbox"/> 遅刻や欠席が増えた(授業、行事) <input type="checkbox"/> 修学意欲の低下 <input type="checkbox"/> 成績の低下 <input type="checkbox"/> 提出物の遅れ <input type="checkbox"/> 必要経費の滞納や未納 <input type="checkbox"/> 部活動を休む <input type="checkbox"/> 周りと関係を持ちたがらない <input type="checkbox"/> 保健室利用が増えた <input type="checkbox"/> 慢性疾患、発達障害等	<input type="checkbox"/> 子どもや学校に対して無関心 <input type="checkbox"/> 過干渉による家族と本人の喧嘩口論 <input type="checkbox"/> 乱雑な家庭内状況 <input type="checkbox"/> 多子(例えば兄弟姉妹が5人以上) <input type="checkbox"/> たまり場になっている <input type="checkbox"/> 親が家庭にいない(長期出張、長時間労働) <input type="checkbox"/> 不定就労、低所得(パート、アルバイト) <input type="checkbox"/> 慢性疾患、障害(心身の障害) <input type="checkbox"/> ひとり親、祖父母による養育 <input type="checkbox"/> 両親の離婚あるいは再婚	<input type="checkbox"/> 気になる生徒の長期休暇期間の生活とそ の前後の生活 <input type="checkbox"/> アルバイトの開始 <input type="checkbox"/> 歓楽街が身近にある
レベルB 積極的経過観察 (Aggressive follow-up)  ※ レベルC に発展するエピソードとして考える項目	<input type="checkbox"/> 欠席が目立つようになる <input type="checkbox"/> 友達関係の変化 <input type="checkbox"/> 風紀の乱れ <input type="checkbox"/> 生徒指導を受けた <input type="checkbox"/> 場にそぐわない言動が目立つ <input type="checkbox"/> 元気がない、食欲がない <input type="checkbox"/> 自傷行為	<input type="checkbox"/> 生徒の保清に無関心(汚れた衣服の着用、不潔な頭髮、体の異臭等) <input type="checkbox"/> 生徒に必要な受診をさせない <input type="checkbox"/> 就学中の呼び出し(帰宅を促す等) <input type="checkbox"/> 生徒が兄弟姉妹の世話をしている <input type="checkbox"/> 就労(アルバイト)の強要 <input type="checkbox"/> 親の家出(遊興、失踪等)	<input type="checkbox"/> 行動範囲の変化 <input type="checkbox"/> 引越し <input type="checkbox"/> 頻回の外泊 <input type="checkbox"/> 歓楽街への出入り
レベルC 介入 (intervention)  ※ 即刻介入を要すエピソードとして考える項目	<input type="checkbox"/> いじめ <input type="checkbox"/> 学校に来なくなる <input type="checkbox"/> 家出 <input type="checkbox"/> 帰宅しなかった <input type="checkbox"/> 精神疾患の発病 <input type="checkbox"/> 妊娠 <input type="checkbox"/> ストーカー行為 <input type="checkbox"/> 自殺をほのめかす言動	<input type="checkbox"/> 虐待行為 <input type="checkbox"/> 身内の自死	作成者氏名 _____ 生徒との関係 _____ 生徒氏名 _____ 生徒所属 _____ 年 _____ 組 _____ 番 作成日月 _____ 年 _____ 月 _____ 日

(注) 生徒指導や警察が介入すべき問題や課題を抱える生徒は、チェックリストに関係なく支援対象とする。

本ページをコピーして使ってください。

取扱注意

### チーム支援のためのアセスメント・プランニングシート

作成者： \_\_\_\_\_

作成月日： \_\_\_\_\_ 年 月 日

生徒： \_\_\_\_\_ 性別： \_\_\_\_\_ 所属： \_\_\_\_\_ 年 組 番 部活動： \_\_\_\_\_

#### 1. 支援の長期目標

#### 2. 背景と経過（アセスメント①）

事象の発生	考えられる要因		
	時（時期）と場所	人間関係	きっかけ
<input type="checkbox"/> いつ・どこで・なにが  <input type="checkbox"/> 事象発生時の状況  <input type="checkbox"/> これまでの経過	<input type="checkbox"/> 時（時期）  <input type="checkbox"/> 家庭  <input type="checkbox"/> 家庭  <input type="checkbox"/> 地域  <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 家族  <input type="checkbox"/> 友人  <input type="checkbox"/> 教員  <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 虐待  <input type="checkbox"/> いじめ  <input type="checkbox"/> 非行  <input type="checkbox"/> 疾病（身体・精神）  <input type="checkbox"/> 成績・進路  <input type="checkbox"/> その他

#### 3. 現在の状況（アセスメント②）

状況                     
  欠課・欠席状況                     
  本人の意向                     
  保護者の意向                     
  キーパーソン

#### 4. 介入の目的と支援の短期目標 ※ 短期目標の設定は、本人の意向、家族（あるいはキーパーソン）の意向を最大限反映させる。

#### 5. 介入計画（プランニング）

□ だれが	□ いつ	□ だれに	□ どこで	□ なにを	□ どのように
担任	.....	.....	.....	.....	.....
副担任	.....	.....	.....	.....	.....
部活顧問	.....	.....	.....	.....	.....
SSWer	.....	.....	.....	.....	.....
SC	.....	.....	.....	.....	.....
教育相談（ECC）	.....	.....	.....	.....	.....
（.....）	.....	.....	.....	.....	.....

#### 6. 振り返り（モニタリング）

## スクールソーシャルワーカーのためのアセスメント考

### 1. ソーシャルワークとアセスメント

#### <アセスメントとは>

インテークやクライアント（以下、Cli）の生活に関わる様々な機関等で情報収集・分析を行い、Cli のニーズおよび意思と併せながら、Cli のおかれている現状（問題状況、Cli と環境との相互・相互作用の問題と状況等）を全体的に分析し、支援計画及び支援展開・方向性を導き出していくプロセスをいう。また、アセスメントは、ソーシャルワークの支援過程全般を通して繰り返されるもので、ソーシャルワーク実践そのものであるといえる。

#### <アセスメントにおける留意点>

アセスメントは、「情報収集とその状況分析」を行うことである。

- ① 情報収集：個人情報取り扱い・プライバシー保護に留意すること。
- ② 状況分析：a Cli と環境との相互・相互作用に情報をあてはめること。  
b Cli のおかれている現状の全体像を把握・分析すること。

#### <アセスメントの特性>

- ① Cli のストレングスや問題解決能力、可能性に焦点をあて、エンパワメントにつなげていくものである。
- ② 問題や状況等について、Cli とソーシャルワーカーが共通理解することが重要で、Cli との協働作業である。
- ③ 事実に即した分析であって、価値や判断を下したり診断名をつけたりすることではない。
- ④ 事実の把握であり、推理や解釈とは区別すること。
- ⑤ 必要な情報を収集・処理して提供すること。
- ⑥ 支援を目標にした実践を構成する過程の 1 つであること。
- ⑦ アセスメントは常に変動するものであること。
- ⑧ ニーズの的確な焦点化を行うこと。
- ⑨ 多職種連携への共通理解・システムを導き出すこと。

### 2. SSW におけるアセスメント

#### <環境へのアセスメントの必要性>

- ① 社会的側面のアセスメントの重要性  
SSWer は環境へ働きかける側面を有する。SSW にいう環境とは、個を取り巻く社会的側面としての、家族関係、人間関係、環境に関わる風土や文化等をいう。
- ② 学校文化に関わるアセスメントの 3 つの視点
  - a 学校を「関わりの対象」としてアセスメント
  - b 学校という「場」をアセスメント
  - c 学校内外の「関係」をアセスメント

#### <アセスメントの対象>

- ① 生徒をアセスメントする
  - a 生徒の状態（ストレングス、発達課題・障害等、出席状況、学業成績、部活動等）
  - b 生徒のおかれている環境（友人、家族、教師等との人間関係等）
  - c 生徒の成育歴 等
- ② 家族・家庭をアセスメントする（生徒の生活基盤の状況把握）
  - a SSW 活動に関する理解度
  - b 生徒に対する養育観や養育状況

- c 家族の人間関係（夫婦関係、親戚や近所との関係、教師との関係等）
- d 学校への関心度や協力状況
- e キーパーソン
- f 経済状況や保護者の就労状況
- g 家庭の持つストレス等
- ③ 学校をアセスメントする（様々な資源を活用して状況把握）
  - a SSWに関する理解度
  - b 学校のSSW活用ニーズ
  - c 学校の組織体制、学校文化
  - d 教職員間の人間関係・力関係、雰囲気（職員室内、学校内、学級、部活動等）
  - e キーパーソン
  - f 生徒・家庭・地域との関係性 等
- ④ 地域をアセスメントする（様々な資源を活用して状況把握）
  - a SSWに関する理解度
  - b 地域の特色、風土、文化
  - c インフォーマルを含めた地域資源の種類
  - d インフォーマルを含めた地域資源の役割 等

表1：対人援助職者が利用者の全体像をしっかりと理解するために必要な情報  
 （ソーシャルワークの統合的アセスメントを高齢者ケアマネジメント実践に応用したもの）

アセスメント項目	
A.利用者は何を問題だと考えているのか	(1) 何が問題なのか？（その本人が述べた言葉）
	(2) この問題は日常生活を営むのにどれほど障害になっているのか？
B.問題の特徴は何か（本人が問題だと思っていること、及び介護保険の対象として問題だと捉えられていることの両方について考える）	(3) 問題の具体的な説明（いつから始まったか、どのくらいの期間続いているのか、問題のおこる頻度、問題が起こる場所や時など）
	(4) この問題に関する考え、感情及び行動は何か？（利用者は問題をどのように感じ、考え、それに応じてどのような行動をとっているのか）
	(5) なぜ、利用者は援助を受けようと思ったのか？ 進んで援助を受けようと思っているのか？
C.問題解決の可能性（本人や家族の問題への対処力、問題を解決するために必要な資源や人の存在）	(6) この問題解決のためにどのような解決方法あるいは計画がすでに考えられたり、とられたりしたか？
	(7) これまで、だれが（人）、どんなシステム（病院、学校、役所といったようなもの）がこの問題に関与してきているか？それは、問題がよりよくなるのに役立っているか？あるいは悪くしているか？
	(8) 利用者のもつ技術、長所、強さは何か？（これは、生育史と呼ばれる利用者の歴史を知ることで見えてくる。家族やほかの人とどんな関係を作ることができるのか、何を大切にしているのか、どんな考え方をしている人なのか、などは人の生きてきた歴史によって作られている）
(9) この問題はどのような発達段階や人生周期に起こっているのか？（例：児童期、青年期、老年期など）	
D.問題の整理	(10) 利用者のどのようなニーズや欲求が満たされないためにこの問題が起こっているのか？
E.解決法	(11) この問題を解決するために使える本人の持っている力、それ以外の人的・物的資源（利用者を取り巻く環境で利用者の問題解決に有効だと思われるもの、介護保険サービスに限定しないで考える）
	(12) どのような外部の資源を必要としているか？（フォーマルな資源、親戚・友人・近隣・セルフヘルプグループといったようなインフォーマルな資源の両方を考える）

出典：渡辺律子「アセスメントの意味とその実践方法」『ケアマネジャー』第10巻第5号、2008年、16ページ

※ 藤澤茜「学校現場で出会う子どもの現状」（四国学院大学スクールソーシャルワーカー活用講座、2017年10月）において配布した資料を一部訂正

## 教育相談コーディネーターの役割

国（文部科学省）や香川県（香川県教育委員会高校教育課）は、教育相談コーディネーターの性格や役割について、以下のように示しています。

### 《国（文部科学省）》

#### ■ 児童生徒の教育相談の充実について（通知）（文部科学省初等中等教育局長/平成 29 年 2 月 3 日）

##### （3）教育相談コーディネーターの配置・指名

学校において、組織的な連携・支援体制を維持するためには、学校内に、児童生徒の状況や学校外の関係機関との役割分担、SC や SSW の役割を十分に理解し、初動段階でのアセスメントや関係者への情報伝達等を行う教育相談コーディネーター役の教職員が必要であり、教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制を構築する必要があること。

### 《香川県（香川県教育委員会高校教育課）》

#### ■ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用ガイドライン～学校の組織的な教育相談体制づくり～（香川県教育委員会事務局高校教育課/平成 29 年 4 月）

##### イ 教育相談コーディネーター役となる教員の位置付けと役割

教育相談コーディネーターは、学校全体の生徒の状況を把握し、関係教職員や関係機関等と連絡調整を図るなど、生徒の抱える課題解決に向けて調整することが求められる。これらの機能的な教育相談体制を構築するためには、中核となる教職員を位置付けることが必要である。校務分掌においてもその旨を明確にすることが必要である。

教育相談コーディネーターの担う主な職務内容として以下の内容が考えられる。

1. SC、SSWの周知と相談受付  
生徒やその保護者にSC、SSWの周知を図り、相談の受付をする。相談の申込みの有無にかかわらず、実情に応じて、教育相談コーディネーターが積極的にアプローチしていくことも重要である。
2. 気になる事例把握のための会議（スクリーニング会議）の開催  
各教員から気になる事例があがるように工夫し、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、SC、SSWなどのメンバーと共に事例の洗い出し、第一次的な方向性決定を行う。
3. SC、SSWとの連絡調整  
生徒の抱える問題に応じて、SC、SSWも参画し、学校としての対応方針をまとめ、効果的な支援が行えるように調整する。SC、SSWの双方の支援が必要な場合には、学校の窓口として、両者間の業務調整などを行う。
4. 相談活動に関するスケジュール等の計画・立案  
教職員や保護者からの相談を受け、SC、SSWの勤務状況を鑑み、適切に相談計画を立案する。
5. 生徒や保護者、教職員のニーズの把握  
生徒や保護者、教職員が問題・課題をどのように捉えているか、現状についてどのよう

に考え、今後どのようにしたいのかを把握する。

6. 個別記録等の情報管理

個人情報の保護等に配慮した記録の集約と管理を行う。

7. ケース会議の実施

生徒の抱える問題に応じて、学年でのケース会議、校内全体でのケース会議、関係機関を含めたケース会議などの開催を企画する。

8. 校内研修の実施

SC、SSWの役割や、学校としての活用方針等を研修会の場などを利用して、全教職員に共通理解できるようにする。また、必要に応じ、関係機関との合同研修会を企画するなど、普段から関係機関と情報交換を行えるようにすることも重要である。

また、文部科学省初等中等教育局長の諮問機関である「教育相談等に関する調査研究協力者会議」（報告）では、教育相談コーディネーターについて以下のように書かれています。

《「教育相談等に関する調査研究協力者会議」（報告）》

■ 児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～（報告）（教育相談等に関する調査研究協力者会議/平成29年1月）

（ウ）教育相談コーディネーターの配置・指名

不登校、いじめ等の未然防止、早期発見のための活動や事案が発生した際は、学校が組織として対応する必要がある。そのため、学校全体の児童生徒の状況及び支援の状況を一元的に把握し、学校内及び関係機関等との連絡調整、ケース会議の開催等児童生徒の抱える問題の解決に向けて調整役として活動する教職員を教育相談コーディネーターとして配置・指名し、教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制を構築する必要がある。

教育相談コーディネーターの配置・指名には、担当教員を追加で配置するほか、教育相談主任等が担当したり、副校長、教頭及び主幹教諭や養護教諭又は特別支援教育コーディネーターが兼ねたり、複数の教職員がこの役割を担ったりするなど、学校の実情に応じ柔軟な対応が考えられる。いずれにしても、各学校において、教育相談コーディネーターが校内で機能する体制の構築が重要である。

また、教育相談コーディネーターは目標と役割分担に基づいて、支援計画の進捗状況を確認し、計画通り進むよう支援を行うことも重要である。したがって、教育相談コーディネーターに対し、職務を遂行する上での一定の役割を与えることや学校の実情に応じ授業の持ち時間の考慮、学級担任以外の教職員とするなどの配慮も必要である。

# エコマップ・ジェノグラム表記例

## 1. エコマップ

エコマップとは、家族内の人間関係や利用者とその家族の社会資源との関係を図式化して描き出し、利用者を取り巻く社会的状況を視覚的に表現したものです。

エコマップを作成することにより、援助過程におけるフォーマル・インフォーマルな社会資源の利用方法を展望することができます。また、エコマップの作成に利用者が参加することで、利用者は自らの状況を客観視でき、問題の整理や気づきを得られるという利点があります。

図 2-9 エコマップの表示例

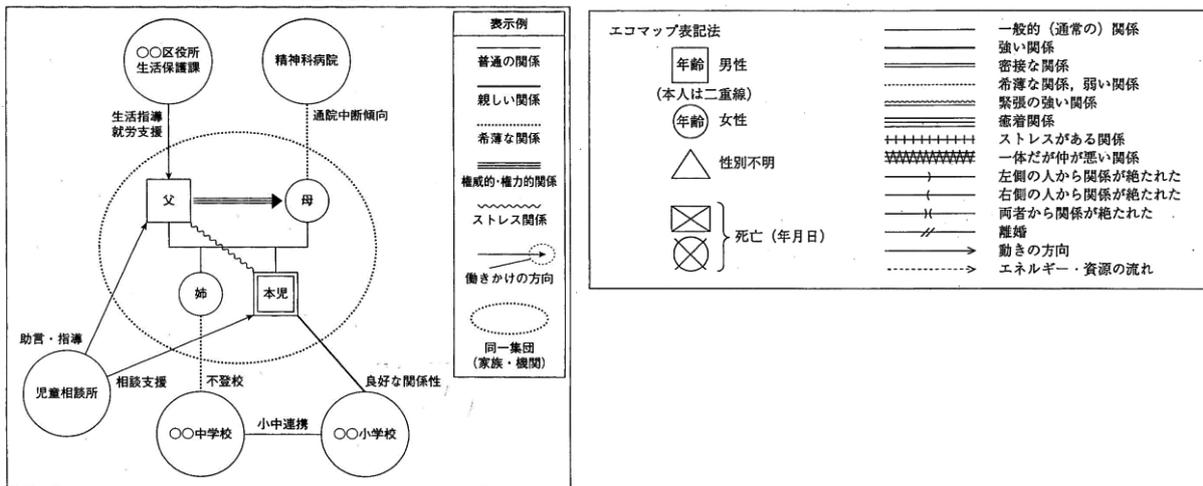
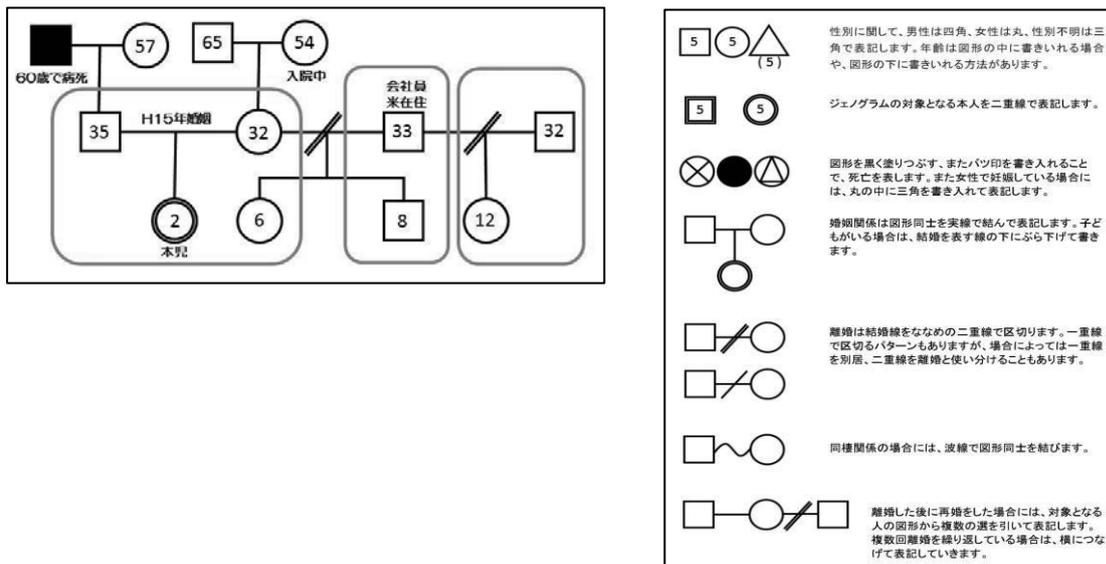


図 2-9 の出典：門田光司・鈴木庸裕「学校ソーシャルワーク演習」ミネルヴァ書房、2012、pp44-46

## 2. ジェノグラム

ジェノグラムとは、3 世代以上の家族の人間関係を図式化したものです。子どもの周囲の人間関係が視覚的に理解でき、結婚・離婚や死別といった人生上の大きな出来事なども同時に確認できます。家族内のキーパーソンを探る意味でも重要な資料となります。



出典：保育のお仕事 (<https://hoiku-shigoto.com/report/news/genogram-and-ecomap/20180701>) 一部修正

利用文献 ―

- 中央教育審議会『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について』(答申)、2015年12月21日
- 教育相談等に関する調査研究協力者会議『生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～』(報告)、2017年1月
- 文部科学省初等中等教育局長『児童生徒の教育相談の充実について』(通知)、2017年2月3日
- 香川県教育委員会事務局高校教育課『スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用ガイドライン～学校の組織的な教育相談体制づくり～』、2017年4月
- 門田光司・鈴木庸裕『学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房、2012年
- 渡辺律子「アセスメントの意味とその実践方法」『ケアマネジャー』第10巻第5号、2008年
- 藤澤茜『学校現場で出会う子どもの現状』、四国学院大学スクールソーシャルワーカー活用講座、2017年10月
- 富島喜揮『実践検証法―事例提供の方法』、四国学院大学ソーシャルワークスクール、2015年11月
- 広島県精神保健福祉士協会『事例検討会および報告集等への事例報告掲載における利用者等のプライバシー保護のためのガイドライン』、2017年3月
- 保育のお仕事 (<https://hoiku-shigoto.com/report/news/genogram-and-ecomap/>)

※ 『生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト活用マニュアル(かがわ版)』は、四国学院大学ホームページからダウンロードできます。

URL : [http://www.sg-u.ac.jp/sal-terrae/area/open\\_class/ssw/](http://www.sg-u.ac.jp/sal-terrae/area/open_class/ssw/)

---

四国学院大学 KCD 推進事業

生徒支援のためのリスクアセスメント・チェックリスト  
活用マニュアル（かがわ版）[増補版]

2018年8月30日 発行

---

発行 四国学院大学（スクール・ソーシャルワーカー活用事業）  
〒765-8505 香川県善通寺市文京町 3-2-1  
(0877) 62-2111（内線 357/富島研究室）

研究代表者 富島 喜揮  
研究メンバー 廣江 仁  
藤澤 茜  
水早 栄子

（五十音順）

---

※ かがわコミュニティ・デザイン（KCD）推進事業は、四国学院大学が主催し地域社会における人と人とのつながり、香川県のコミュニティ・デザインを豊かにすることを目的として企画した事業です。